

問 先見の大切さを木材供給センターに

答 多方面から検討を加え成功に導く

内海 利為 議員

問 森林は公益的機能を有しております。儲かる林業との整合性をどのように調整されるか。

市長 大面積の伐採を行う事により、災害の起因を発生してはならない。現在、市有林において多方面から間伐方法、作業路の維持管理等を含めた試験研究を行っている。これらを見極めた上、あらゆる方面から指導マニュアルを作成して取り組んでいきたい。

問 供給センターの年間取扱量は10万m³となっております。どのよう確保されますか。

市長 センター稼働後の必要原木量は既存の製材を含め、単年で19万m³、その内、宍粟市内からは10万4千m³を予定している。民有林の団地化を推進し収入間伐によって量の確保をしていきたい。

問 供給センターへのアクセス道路をどのように計画されておりますか。

市長 県立伊和高校前交差点から進入している市道の改良を行い、暫定進入路として活用するが、将来的には県道養父宍粟線の改良に併せ、搬入道路の整備を計画しております。

問 供給センターの構成員にみどり公社の参加を望まれてはいかがですか。

市長 公社の定款により加入はできないが、事業協力はいただける。



大型機械での作業風景

問 旧山崎安富衛生一部事務組合し尿券の責任は

答 管理者として責任を感じている

伊藤 一郎 議員

問 旧山崎安富衛生一部事務組合し尿券について市民から公文書請求がされています。議会に出された資料は、H16～18年の3カ年に約5万7000枚が多く出回っています。金額にして、約1200万円の損失です。問題は、タバコ店の販売枚数が、実収枚数よりも多くなくはないのに、実収枚数が多く出ていることです。また、おかしいと思った時に、旧し尿券の廃止をなぜしなかったのか。市長は、この問題の責任をどうされるのか。

市長 もともと、1000枚とか違った枚数が出ていました。それはタバコ店で販売されて、その在庫枚数が全て返ってきたということにならないからです。その誤差がどの程度が適切なのかという問題があります。一定の誤差があることは認識していました。ただ、H17年に、ずいぶん量がでてきました。不正との判断がしにくいのです。新券を出した時に、旧券を廃止すべきでしたが、合併協議の中で旧券の使用が決まっていたのでした。

福祉部長 調査したのは、H18年7月です。どこに問題があったのかは、券の管理・販売ルートの流れが明確に確認できなかったことです。新券については、通し番号を打って、流れのわかる状態にしました。

私の責任を回避しようとは思いませんが、この問題は、確認のしようがないのです。管理上の責任は十分に感じています。



し尿処理施設